



CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM)

2005年春号



レスブリッジ フェローシップ

マーガレット・リッジウェイ

カナディアンジャパニーズミッション
の創設者

メアリー・ホールドクロフト

彼女の名は同労者として又愛する友としてカナダの日系の福音的クリスチャンの信徒たちの間でよく知られています。マーガレットのクリスチャン人生は3つの重要な性質を現しています。

第一に彼女は従順でした。十代の頃すでに悪戦苦闘する事から退き、イエスキリストに心を開きました。彼女の一つの志は神に信仰深く従順に奉仕する事でした。彼女は日系漁村の日曜学校で教えるハリー師の元で学び、今まで福音を聞いた事が無い人達に伝道できる事に感動を覚えました。ハリー師が召天された後、マーガレットは指導を引継ぎ、更に遠くの東バンクーバーまで伝道活動を広めました。1941年に太平洋戦争が勃発時、BC州沿岸に住む日本人達は皆、敵国の邦人と化しました。土地や家から追い立てられコートニー地域に隔離され、初期の日曜学校の仕事はことごとく打ち砕かれました。しかし、これは神の示される時でもありました。マーガレットはこの大変な時期に神の愛と慈悲を示す為、隔離された友たちについて行く事を神からの導きとして従ったのです。

第二に彼女は中心的な存在となりました。最初コートニーで伝道を始めた1942年から1980年の定年まで、彼女は日本人を中心に福音伝道を続けました。



● その最長の奉仕者となりました。彼女はC.J.M.の働きとその同労者たちにとって生き字引となりました。

第三に彼女は冒険好きでした。何とまあ新しい試みを愛した事でしょう。この開拓精神無しに彼女の行った全ての事を成し遂げる事はなかったでしょう。また、彼女は全てを置き去りにして一時、小旅行をするのも好きでした。それは丁度2004年11月5日のように。彼女は死を恐れる事はありませんでした。そのときが来ると、それはまるで自然なことのよう、全てを置き去りにし、新たな冒険へと旅立ちました。その最後の旅、御国への旅が、彼女の為に予め整えられていたものであったのは何と幸いな事でしょう。

又、マーガレットは彼女を知る多くの人々から惜しがられることでしょう。神は慈悲深くも、彼女を私達に送って下さいました。そして、彼女は今、何処にも勝る地にイエスキリストと共にいます。



メアリー・ホールドクロフト

日本宣教前任者でマーガレットの同労者、又、最期まで彼女の介護をされた永年の友。メアリーのマーガレットに対する愛に感謝致します。

疎開の宣教師にお別れの言葉

エドワード吉田牧師

マーガレットは敬虔なバプテスト系の家庭で育てられました。戦前より彼女は日本人に興味を持ち始めていました。日本福音団のハリー夫妻の家庭伝道の友として、シーアイランド（現在のバンクーバー国際空港）に住む日系の子供達を訪れ、日曜学校を開きました。この無償の精神が日系人の為に働く神からの召集の出発点となりました。彼女の海外伝道願望がパールハーバー襲撃で絶たれたとき、彼女は神が新たな道を開いて下さるのを見ました。1942年6月、彼女はBC州の奥地に送り込まれた日系人の後を追ったのでした。後は歴史が物語っている通りです。

レスブリッジ ジャパニーズクリスチャンミニストリー

秋山賢牧師



秋山賢牧師 真理夫人
創平君 (6)
有紗ちゃん (4)

私達が奉仕するレスブリッジジャパニーズクリスチャンフェロシッパの総会が2月にありました。今私は、目的主導の教会形成を目指すように、神様からチャレンジを受けています。全ての教会は「どうしてこの教会は存在するのか？」と問うことが必要です。

教会の第1の務めは、教会の目的を明確にすること、すなわち神様が、この教会を通してなさろうとしていることをはっきりさせることの必要性を総会においてメンバーに伝えました。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。律法全体と預言者たちが、この二つの戒めにかかっているのです(マタイ22:37-40)。「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい」(マタイ28:19-20)。

この2つのイエス・キリストのメッセージを土台として、私達の教会の「5つの目的」を明確にしました。①礼拝を通して心を尽くして神を愛すること②奉仕を通して自分のように隣人を愛すること③アウトリーチ(出て行ってイエス・キリストの弟子をつくること)④神の家族という共同体としてのフェロシッパ⑤キリストの弟子となるために訓練を受け成長すること。この先一致して5つの目的を覚えつつ、教会の活動のすみずみにわたってこの目的を果たしていく教会づくりをしていきたいと総会において11名のメンバーと確認しました。

献金

秋山牧師ミニストリーのサポート、また一般会計に対する献金は、下記にお送り下さい。

CJM treasurer
Brenda Ohara-Peters
669 Hillman Cres.,
Mississauga, ON L4Y 2Y1

イスラエルの母—日系人の霊的な母



トム&メアリー田住
SENDインターナ
ショナルの日本宣教
前任者

田住 トマス

11月12日に行われた故マーガレット・リッジウェイ師の記念会に出席し、彼女の親戚、友人、同労者などから彼女について思い出の言葉を聞いた時、IIサムエル20:15-22の賢い女性を思い出しました。聖書はこの名前も書かれていない女性のことを

「平和な、忠実な者」と記しています。そして、彼女の信仰と勇気が敵に包囲されていたイスラエルの町を救ったことがわかります。その結果として、彼女はイスラエルの母として認められています(19節)。

主がマーガレットと私達を会わせて下さったことに感謝しています。メアリーがクリスチャンになる以前、主はマーガレットを用いてメアリーにイエス・キリストを伝えて下さいました。それは、ある夜、メアリーがダンスに行っていた時、マーガレットは夜の2時までメアリーの帰りを玄関で待っていました。そして、帰って来たメアリーにキリストを信じるようにすすめました。その時、メアリーはキリストを受け入れませんでした。それがきっかけで、その後、信じるにいたりしました。

マーガレットはこの世を去りましたが、イスラエルの霊的な母として、彼女の多くの霊的な子供達に覚えられていることでしょう。そして、天において「その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言う」(箴言31:28)でしょう。

エドモントン日系キリスト教会

ナカノ ユリ牧師



エドモントン日系キリスト教会は、2005年は目的をもってスタートしました。それは『神様の目的についての40日間の学び』のキャンペーンで始まりました。このキャンペーンを通して、教会の前進を見ることができました。

最初に、今まで教会全体で同時に行う様なカリキュラムの学びをしたことがなかったので、教会の中に一致を見ることができました。また日曜学校の全部のクラスでの学びの内容、小グループでの学びの内容、毎週の礼拝の説教の内容が一つに統合されて、御言葉と信仰についての基本的な神の教えを一緒に学ぶ事ができました。各人は、その本を一日一章ずつ読み、週の聖句を暗唱するなど、御言葉を通して励まされました。

また日曜学校のクラスと小グループのクラスの両方に出席している人達は、この学びを通して大変成長しました。青年部の出席人数は倍になり、現在多くの人が出席し続けています。この学びのプログラムは、新しいクリスチャンにとってはすばらしい土台造りとなりました。また信仰生活の長い人にとっては、霊的に新しくされ、強められる時となりました。

このように、この学びのキャンペーンは、エドモントン教会を前向きにさせました。そして礼拝、神の家族の交わり、弟子造り、奉仕、伝道する教会として神が私達の成長を助け続けてくださることを祈っています。

そして更に確かな実が実りますように、キャンペーンの後も、日々御心を探りつつ、将来の教会のビジョンと方向が神から与えられますように共に祈りください。

カルガリー日系福音教会

池の上イワオ牧師

昨年7月に私たちは日本の愛知県から来られた谷口牧師ご一家を歓迎しました。谷口牧師は副牧師として奉仕され、今年1月に当教会の日本語部の牧師として満場一致で受け入れられました。師の聖書に対する深い知識と教える賜物は、教会員の感謝する所です。夫人のみゆき姉は師を助け、教会の初めての試みとして「人生を導く5つの目的」(The Purpose Driven Life)を用いて、3つの異なった家庭集会を導いています。英語部の数人の若い婦人は一世の婦人方と共にもっと親密な関係を築きつつあります。月例の親睦会では日本語部と英語部が協力し教会の各行事を計画し親睦と伝道のために共に働いています。

英語部に於いても変化があります。ロン・ダークス牧師が昨年12月に2005年3月をもって辞任することを発表されました。ロン師とリンダ夫人は当教会でほぼ17年間献身的に尽くされました。1988年に若者のための牧師として招聘された時、英語部の年長の若者は高校生でしたが、今では、彼らが教会活動の中心的指導者になっています。ダークス師夫妻のお別れ祝賀会は4月2日に当教会にて持たれます。主がお二人の前途を導き、主の最善が成されお二人が主に仕えていかれますように願っています。委員会が結成され、英語部牧師のための志願書は3月31日まで受け付けています。どうか牧師招聘委員会の志願者選考過程のためにお祈りください。

救いの証し

谷口洋一牧師

1968年12月24日、アメリカのアポロ宇宙船から開口一番クリスマスの挨拶が送られてきました。続いて、なんと聖書の創世記1章が朗読されました。私は信仰によって聞きました。というのは、その10日前に私はクリスチャンになったばかりだったからです。

当時私は警察官になることが決まっていた。しかし、いざとなると自分の心の中は、ポツカリと穴があいていました。人生を生きていく精神的な地図を持っていない自分に不安を感じ始めていたのです。そんななか、当時、ラジオから流れていたキリスト教番組を聞き、キリストを信じる決心をしました。その後、警察学校をやめ、キリスト教の出版社であるいのちのことば社で、4年働きました。私はもっと聖書を学びたいという願いを持つようになり、西宮市の関西聖書学院(KBI)で学びました。卒業後、数年間開拓伝道をしました。その後、名古屋に戻り、会社で働きながら、フレンズ師ご夫妻と共に、開拓伝道のお手伝いをさせていただきました。フレンズ師が退職されたあと、その無牧の教会で10年間、説教の奉仕や日曜学校の奉仕をさせていただきました。

1991年転職し、今度は12年間、知的障害者の施設職員として働きました。そんな中、2001年1月、以前伝道師をやっていた瀬戸サレム教会からの依頼で、礼拝説教の手助けをさせていただくようになりました。2003年秋、アメリカの日系人のための開拓伝道を求めて、渡米しました。その10ヵ月後、「あなたのその力で行き・・・私があなたを遣わすではないか」(士師記6:14)の御言葉を与えられ、この教会に遣わされた次第です。



谷口洋一牧師、ミユキ夫人
マナさん(9)
アガサさん(16)

トロント日系福音教会

戎崎レイ牧師

トロント日系福音教会は、特別な霊的成長のキャンペーンを終えました。それは、40日間でした。神は、ある人を救い、他の人たちの心の中に静かにチャレンジを与えて下さっておられます。英語部も日語部も共に同じ一つの目的に向けて進んでいるという一体感が与えられました。40日の目的キャンペーンは、人生の意味と目的に焦点を絞った、明確で力強いインパクトを与えてくれました。「私は何のために生きているのか」という質問がキャンペーンの中心のテーマでした。

キャンペーン中の英語部の出席率は40%上昇しました。スモール・グループの参加率は、600%も上昇しました。この期間とその後に洗礼を申し出た人たちは日語部を入れると6人になりました。教会のリーダーとしてこのような経験は、今までありませんでした。神の恵みは驚くべきものです。

日語部のほうからは、教会員と礼拝出席者全員が、40日の霊的な心の旅を一緒にスモール・グループに参加しました。他の教会や、まだクリスチャンになっていない人たちも含めると、全員で32人になりました。このキャンペーンの期間に、ひとりの人がイエス・キリストを信じ受け入れました。キャンペーンを初めた1月30日には、スモール・グループ用の日本語のDVDやテキストは、まだ発売されていませんでした。それで、パーパスドリブンジャパンのご好意で、テキストは日本での発売前に、またDVDは試供品を出来次第、数回送って頂く事にしました。そのDVDは、私達のスモール・グループで必要な1~2日前に届きました。神は、備え主です。神は本当に素晴らしいお方です。そのような、神の愛の明確な印が与えられて、今も生きて働いておられる神の御手の中に、神の働きとその御業を拝見させて頂きました。